

令和2年度「行政評価」の結果等について

1 本市の行政評価の概要

「第6次宇都宮市総合計画」(以下、「第6次総合計画」という。)で掲げた長期的な目標の達成度を包括的・体系的に評価するため、行政評価は、「政策評価」「施策評価」「事業評価」の3階層で構成する。

評価の種類	概要
政策評価 (5年に1度実施)	「総合計画基本計画」の政策体系に基づき、基本施策における目指すべき市民生活の状態の達成度を測り、市民満足度の向上を目指すもの (「第6次総合計画基本計画」の策定に向けて、「第5次総合計画後期基本計画」の総括評価として平成28年度に実施した。)
施策評価 (毎年実施)	基本施策に連なる各施策について、施策の進捗状況や市民満足度の推移などを踏まえて、施策の課題抽出や今後の方向性を検討するもの
事業評価 (毎年実施)	各事業について、施策目標を達成するために何が有効であるかという視点から、今後の取組方針を検討するもの

2 「施策評価」の評価方法

- 各施策について、4つの評価指標に基づいて多角的・総合的な評価を実施
- 評価は、点数化による定量的な評価によって客観性を確保
- 「第6次総合計画」の体系に基づき、「令和元年度」に実施した事業を対象として、評価を実施

※ なお、今年度は、新型コロナウイルス感染症対策に最優先で取り組みながら、実施計画の策定と一体的に行政評価を実施することとし、11月公表とした。(例年7月公表)

《評価指標の概要》

評価指標	概要
①産出指標の達成度	「第6次総合計画」に掲げる施策指標の達成度を評価
②成果指標の達成度	
③市民満足度の推移	市民意識調査結果において、各施策の満足度について「満足」又は「やや満足」と回答があった割合(市民満足度)の推移を評価
④主要な構成事業の進捗状況	「第6次総合計画」の「まちづくり戦略プロジェクト」や主要事業から、主要な構成事業として選択した事業の進捗状況を評価

《評価基準》

配点	25点	20点	15点
①産出指標の達成度	A 100%以上	B 70%以上 100%未満	C 70%未満
②成果指標の達成度	A 100%以上	B 70%以上 100%未満	C 70%未満
③市民満足度の推移	A 基準値+5%以上	B 基準値±5%未満	C 基準値-5%以下
④主要な構成事業の進捗状況	A 2事業以上が「計画以上」	B 主に4事業以上が「計画どおり」	C 2事業以上が「計画より遅れ」

総合評価 (100点満点)	①～④の合計点により, 判定		
	順調 【A評価が2つ以上】 (90点以上) (C評価がある場合を除く)	概ね順調 (75点以上 90点未満)	やや遅れ 【C評価が2つ以上】 (75点未満) (A評価が2つある場合を除く)
	組み合わせ例		
	AAAA ・ AAAB ・ AAB B	AAAC ・ AACC ・ AABC ABBB ・ ABBC ・ BBBB BBBC	ACCC ・ ABCC ・ BBCC BCCC ・ CCCC

3 評価結果の総括

(1) 施策評価の総括 (別紙1 参照)

ア 評価結果について

区分	令和2年度 施策数 (割合)	令和元年度 施策数 (割合)
順調	25 (29.4%)	20 (23.5%)
概ね順調	60 (70.6%)	65 (76.5%)
やや遅れ	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

- ・ 昨年度と比較し、「順調」が増加したのは、「市民意識調査」の「A評価」が増加したことによるものであり、特に、「環境分野」や、「都市空間・交通分野」の分野で、「順調」の割合が高くなっている。
- ・ 全ての施策において「概ね順調」以上となっており、引き続き、全ての分野で各取組を着実に推進していく必要がある。

イ 個別指標ごとの結果について

① 産出指標の達成度

区分	令和2年度 施策数 (割合)	令和元年度 施策数 (割合)
A評価	38 (44.7%)	49 (57.6%)
B評価	45 (52.9%)	36 (42.4%)
C評価	2 (2.4%)	0 (0.0%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

- ・ 昨年度と比較し、達成度90%台で「B評価」となった施策が多くなった、一方で新たに5施策が「A評価」となった。
- ・ 「C評価」となっている指標については、こうした要因の分析に基づき、目標達成に向けた取組をより一層推進していく必要がある。

② 成果指標の達成度

区分	令和2年度 施策数 (割合)	令和元年度 施策数 (割合)
A評価	29 (34.1%)	38 (44.7%)
B評価	52 (61.2%)	44 (51.8%)
C評価	4 (4.7%)	3 (3.5%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

- ・ 昨年度と比較し、達成度90%台で「B評価」となった施策が多くなった、一方で新たに4施策が「A評価」となった。
- ・ 「C評価」となっている指標については、こうした要因の分析に基づき、目標達成に向けた取組をより一層推進していく必要がある。

③ 市民意識調査結果

区 分	令和2年度 施策数 (割合)	令和元年度 施策数 (割合)
A評価	20 (23.5%)	1 (1.2%)
B評価	65 (76.5%)	64 (75.3%)
C評価	0 (0.0%)	20 (23.5%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

- ・ 「都市魅力」や「環境」などの分野において、多くが「A評価」となっており、各取組の充実や情報発信の強化が、市民意識調査の結果に影響した要因のひとつと推測される。
- ・ 引き続き、各取組を着実に推進するとともに、市民への情報発信を強化していく必要がある。

④ 主要な構成事業

区 分	令和2年度 施策数 (割合)	令和元年度 施策数 (割合)
A評価	2 (2.4%)	0 (0.0%)
B評価	83 (97.6%)	85 (100.0%)
C評価	0 (0.0%)	0 (0.0%)
計	85 (100.0%)	85 (100.0%)

- ・ 全ての施策において「概ね順調」以上となっており、引き続き、取組を着実に推進していく必要がある。

(2) 事業評価

区 分		R2 事業数 (割合)	R1 事業数 (割合)
継 続		748 (88.4%)	770 (88.3%)
見直し (予定を 含む)	改 善	31 (3.7%)	21 (2.8%)
	拡 大	45 (5.3%)	38 (5.0%)
	縮 小	4 (0.5%)	4 (0.5%)
	廃止・終了 (統合を含む)	18 (2.1%)	17 (2.2%)
	小 計	98 (11.6%)	80 (10.5%)
計		846 (100.0%)	872 (100.0%)

- ・ 対象となった事業は、概ね「計画どおり」進捗しており、各分野で着実に事業が実施されている。
- ・ 見直し等を予定している事業については、健康・福祉・医療分野における、「健康づくりの推進」や「高齢者のいきがづくりの推進」、産業・環境分野における、「農林業経営を支える生産体制の強化」、行政経営分野における、「行政サービスの電子化」、「スマートシティの推進」等の事業で取組の「拡大」が多くなっている。
- ・ 引き続き、事業評価における事業の検証（実績や成果等）を踏まえ、より効果的・効率的な事業執行を図っていく必要がある。

3 日本一施策事業について（別紙2 参照）

- ・ 市民が誇りや愛着を持てるような、全国に誇れる・選ばれるまちづくり事業（日本一施策事業）を創出・推進するため、65事業（内訳：新規10、継続55）を選定した。
- ・ 選定された事業のうち、「ネットワーク型コンパクトシティ」に関する取組をはじめ、今年度新たに選定した「SDGsの推進」、「スマートシティの推進」については、自治体から視察を受け入れるとともに、国際会議に招聘されるなどにより、国内外からの注目を集め、本市の発信力の向上にも寄与している。
- ・ 今後とも、本市ならではの特色ある施策・事業を創出・推進し、広くアピールすることにより、本市の魅力を更に向上させ、東京圏からの移住・定住の促進などの取組に活用していく。

[選定の区分と考え方]

区分	考え方
トップクラス (日本でトップクラス)	活動量やその成果などが客観的・定量的に全国でトップクラスにあるもの
独自性 (日本で唯一、宇都宮独自)	地域の資源やアイデアを活用し、宇都宮らしさや独創性・独自性があり、「宇都宮オリジナル」や「宇都宮モデル」として全国に誇れるもの
先駆的 (日本で先駆け)	市民ニーズや時代の趨勢を見据え、全国に先駆けて取り組むもの

[新たに選定した主な取組]

取組名[所管課] 選定の区分	◆特徴（選定理由）及び取組概要
SDGs未来都市の推進 [環境政策課] 先駆的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 内閣府の「SDGs未来都市」に選定 ・ SDGsに対する宇都宮市全体での理解促進と市民・事業者とのパートナーシップの基盤強化(宇都宮市人づくりプラットフォーム設立) ・ 地域課題の解決を図るシュタットベルケ(※)の構築を目指した、地域新電力会社の設立 ※地域の自然エネルギーを生かした電力事業を始めとする公益事業と地域の交通維持や経済の活性化などの地域課題を、地域資源と住民の協力で解決する取組
スマートシティの推進 [政策審議室] 先駆的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国土交通省の「スマートシティモデル事業」(「先行モデルプロジェクト」)に選定 ・ LRTを軸として、「モビリティ」・「ホスピタリティ」・「エネルギー」の実証実験等に取り組み、誰もが自由に移動でき、便利で楽しく過ごせる、クリーンなまち「地域共生型スマートシティ」の実現を図る。
オリジナル婚姻届の作製等 [市民課] 独自性	<ul style="list-style-type: none"> ・ 企業協賛による、オリジナル婚姻届の無料配布(記念用台紙の配布、フォトスポットの設置等をパッケージ化した県内初の取組) ・ 本市の特色をイメージしたイラストを施したオリジナル婚姻届の配布などにより、カップルの門出を祝福するとともに、宇都宮市に「住んでみたい」「住み続けたい」と思う気持ちの醸成を図る。
交通ICカード導入支援 [交通政策課] 先駆的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「Suica」と連携した「地域連携ICカード」を全国に先駆けて導入(全国初) ・ 運賃支払の簡略化と、これに伴う定時性・速達性の向上・乗り継ぎの円滑化など、公共交通の利便性向上

4 評価結果等の活用

本年度実施した評価の結果については、各施策の進捗状況や課題を「総合計画実施計画」の策定や予算編成等に活用していく。